

令和6年度科学研究費助成事業「学術変革領域研究（A）」に係る中間評価結果

| | | | |
|-----------------|-----------------------------------|-------|--------|
| 領域番号 | 21A203 | 領域略称名 | SF 地震学 |
| 研究領域名 | Slow-to-Fast 地震学 | | |
| 領域代表者名 (所属等) | 井出 哲 (東京大学・大学院理学系研究科 (理学部)・教授) | | |

(評価結果)

A (研究領域の設定目的に照らして、期待どおりの進展が認められる)

(評価結果の所見)

本研究領域は、新学術領域研究「Slow 地震学」を後継する発展的研究として、異分野間融合の熟成と先進的技術の導入により、地震現象の学術的概念を根本的に変革することを目的とした基礎研究を推進するものである。

従来の地震学における視点を転換し、Fast 地震から Slow 地震を中心とする新しい学理構築を領域全体の推進方策として据え、各計画研究では具現性の高い方策が策定されている。また、隔年に実施される公募研究採択においても、各計画研究との連携及び相補性を基準として設定している。さらに、定例の国際ワークショップや独自の海外派遣ワークショップの開催、国内外の学会や有力国際学術誌における特集号の企画により、国際的にも学術体系の転換を優位に主導している。

また、地震学に対する社会的意義や期待を十分に認識し、適切に対応しているものと評価できる。すなわち、将来の地震発生の定量的予測については、Slow 地震情報に基づいた能力向上を目標とし、その科学的意義の重要性が領域全体で共有されている。実際、2024 年の能登半島地震や日向灘地震の発生時には、科学的知見に基づいた解説や助言が為されている。

領域代表者のリーダーシップのもと、学術変革領域研究として極めて順調に進展していると評価できる。